

平成24年度 第1回江田島市公共交通協議会 (H24.5.23)

協 議 会 議 事 録				
会議名	平成24年度 第1回江田島市公共交通協議会			
日 時	平成24年5月23日(水) 14:00~15:30			
場 所	江田島市役所 2階会議室			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教 授	おかやま まさと 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役社長	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会 長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのる 谷口 実	○
	広島県タクシー協会 江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会 長	おがた けんそう 小方 憲三	○
	江田島市老人クラブ 連合会	会 長	なかもと のぶこ 中元 信子	○
	江田島市社会福祉協 議会	会 長	おおつ かつひこ 大津 克彦	○
	江田島市女性会連合 会	会 長	おかだ れいこ 岡田 鈴子	×
	江田島市観光協会	会 長	なかしま まさる 中島 勝	○
	中国運輸局海事振興 部旅客課	課 長	おかざき えいじ 岡崎 英治	○
	中国運輸局広島運輸 支局	首席運輸企画専 門官	やざわ しょうじ 八澤 昭二	○
	広島県地域政策局 地域政策総務課	課 長	やたがい ひでゆき 八谷 秀幸	代理出席 あくたがわ まさひろ 芥川 雅洋
	江田島警察署	地域交通課長	ひら のりたか 平 徳隆	○
	市議会産業建設常任 委員会	委員長	やまき のぶかつ 山木 信勝	○
	市議会交通問題調査 特別委員会	委員長	とち やすのり 登地 靖徳	○
	江田島市	副市長	しょうい よしあき 正井 嘉明	○
	江田島市	総務部長	ど て さんせい 土手 三生	○
江田島市	土木建築部長	いしい かずお 石井 和夫	代理出席 ぬまた ひでし 沼田 英士	

1 開 会	
事 務 局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
○ 委員の紹介（自己紹介）	
委 員	自己紹介
3 議長の選任について	
事 務 局	野原委員を議長に選任
4 協 議	
(1) 平成23年度歳入歳出決算について	
事 務 局	－資料1-1により説明－
議 長	監査委員から監査報告をお願いしたい。
委 員	－資料1-2により報告－
議 長	先程の事務局からの説明及び監査委員からの報告に関して、何か質問・意見はないか。
委 員	2月に決算見込額を出している。この時と変わっているのではないかと思うが、その辺りの具体的な説明と、おれんじ号の収支率が20%を目標にしていたのではないかと思うが、これが何パーセントくらいになったのか伺いたい。それから、決算だから、1800万円をつぎ込んで効果があったのか、説明を求める。
事 務 局	<p>決算見込額との違いは、歳入では国からの補助金が確定額ではなかったため、見込額では7,583千円となっていたが決算額では7,327千円という確定値になっている。預金利息も見込みでは697円になっているが、決算額では631円になっている。</p> <p>歳出の方は、会議費は見込額では388,460円だが、決算額では382,420円となっており、委員の費用弁償で金額が変更となっている。事務費は55,000円だが決算額では57,120円、こちらは振込手数料が増えた格好となっている。事業費の見込みが18,206,527円であったが、決算では18,395,386円となっており、おれんじ号の確定による差額と、バス時刻表を作成したものなどにより増加している。</p> <p>おれんじ号の効果の検証については、例えば今のおれんじ号1367万円、こちらの中に調査をしたものもあるが、収支率としては昨年でおおよそ5%であった。路線により2%台と厳しいものもあったが、これは路線バスと重複して運行していた部分があり、この4月から路線バ</p>

	<p>スの運行を、おれんじ号と重複する部分は見直している。その結果、後ほど報告するが4月の利用は大幅に伸びている状況である。</p> <p>その他の検証では、「西能美航路の合理化・効率化」は早瀬大橋での交通量調査を12月に行っており、今年度も行いたい。来春第2音戸大橋が架橋された際の、航路への影響等を協議する際の資料とさせてもらいたい。</p> <p>また、「バスターミナルの機能強化」が1314万円ほどあるが、こちらは中継ターミナルゆめタウン前の停留所を2つ増設しロータリーを改修したことによるバス乗り入れの向上と、方面別に停留所を設けたことによるお客様の乗り間違いを防ぐ役割を担っている。</p> <p>「インターネット等による情報提供」については、欠航等のメール配信を千人以上の方が登録されており、そういった形の情報提供が一定の効果を上げていると思う。</p> <p>「サイクリングマップ」については近年サイクリストがたくさん来られ、5月初めにジャイアント社の方が来られ走られたが、マップについては概ね好評をいただいている。ちなみにサイクリングマップについては、今年度、自転車の更なる観光誘致として、市の予算で組み合わせてもらっていることにより、公共交通協議会の予算からは今年度から外させてもらっている。</p>
委員	<p>直接協議会とは関係ないが、昨年来第2音戸大橋や国・県の離島に関する補助金について、いろいろ議題に上ったわけだが、的確な説明はなかった。平成23年度として江田島市に国・県から何を補助してもらったかを、分かれば教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>国・県からの航路補助ということだが、昨年度広島県において、離島航路にかかわらず、生活航路であり陸上で迂回すると距離が長くなる航路について、航路補助となるような制度ができています。平成23年度はこれに該当するものがなく補助金を受けていない状況である。</p> <p>平成24年度についても、一般会計の予算において引き続き計上している。今年度また県の補助要綱に従い計算した結果、対象航路に補助が当たるような状況にあれば、補助申請をし、県と市から1/2ずつ補助を出すこととなる。</p>
議長	<p>ほかに何か質問などはないか。</p> <p>それでは平成23年度歳入歳出決算については承認いただいたということで取りまとめさせてもらおう。</p>
(2) 平成24年度事業計画及び歳入歳出予算について	
事務局	<p>－資料2-1, 2-2により説明－</p>
議長	<p>次年度の事業計画と歳入歳出予算について、質問・意見があればよろしくお願ひしたい。</p>

<p>委員</p>	<p>今まで公共交通協議会には国からの補助金が入っていた。このたびからなぜ入らなくなったのか。また、おれんじ号は赤字になるのだと思うが、それに対する国の補助が事業者に入るはずである。それをこちらの歳出に生かしているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>国からの補助について、ご質問のとおり国の方から「地域公共交通確保維持改善事業補助金」があり、その中の地域内フィーダー系統に係る補助というものが、おれんじ号の運行に対する補助金として該当する。</p> <p>平成23年度までは、旧補助制度である「地域公共交通活性化・再生総合事業補助金」を充てており、平成24年度から新たに確保維持改善事業の補助金を充てることになるが、委員からご指摘があったとおり、こちらの補助金は事業者に向けて補助金が入る仕組みになっている。そのため今回この予算書の歳入には、国の補助金という項目を外しているが、歳出では現在どれくらいの補助金が入るかが確定していない状況である。後ほど説明する生活交通ネットワーク計画に項目が出るのだが、およそ1/2程度、国に見てもらえるのではないかとという試算が出ている。こちらについては確定していない金額ということで、歳出予算には反映させていない。</p> <p>補助金の事業年度が9月末までとなるので、10月以降国の方から確定額が事業者へ振り込まれれば、事業者と話してその分だけ委託料で既に支払ったものを戻してもらおうことを現在考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>予算決算の関係だが、事業費が決算額1839万円であったのに、今度の予算では2301万円と、500万ばかり増えているが、これはなにか意味があって増やしているのか。それとも、こうやって前回は266万円使っていないという絡みなのか、説明してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年度の事業費のところでは、おれんじ号のところが決算額1000万円程度であったが、予算では1200万円に増えている。大須地区社会実験便のおれんじ号への変更という点で、620万円ほど増える試算となっているので、その分金額が増額となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>事業計画として「西能美航路の合理化・効率化」というところで、利用状況調査として50万円を計上しているが、これだけか。というのが、具体的にお金を使うものとしてはこのように割り振っているのだろうと思うのだが、1年間をかけてこの協議会で利用調査をするだけということではないと思う。</p> <p>当初に立てた年次計画の中で、今年度はどこまで進め、次年度はどういうところまで進めていくというものの中で、何年目に当たるから、今年はこの全体のことをやる中で、具体的にお金を使うのはこの部分についてであるというふうになっているのが、事業計画書であると思う。これは予算書の附属書という認識だと思うが…。</p>

<p>事務局</p>	<p>予算書の計画のところでは利用状況調査ということで、引き続き調査を昨年度と同様にさせてもらうということだが、昨年度最後の協議会で「今後の海上交通の協議方針」という資料を配らせてもらい、その中で平成24年度は、西能美航路については三高～宇品航路が新たな航路事業者に引き継がれる予定であるため、中町・高田～宇品航路とともに今後の利用実態について注視するということと、西能美航路の再々編に向けて話し合いを実施するということと、今年度と来年度にかけて「西能美航路の合理化・効率化」事業の検証結果、航路の利用実態に基づいて、航路資源の共有や将来的な望ましい航路運営に向けた話し合いを実施する。金額的なものには出てこないがこういったものは引き続き検討し、計画を実施していきたいと考えている。</p> <p>事業計画には載せていないが、考えの中にはあると事務局としては理解している。</p>
<p>委員</p>	<p>この下の部分も全てそうなのだが、小さいことの、個別のことばかり目を置いて、今年度は全体の流れの中でどういうところまでやっていくという大きな目標を持たないと。事業計画とはそういうもので、これは予算の内訳書である。</p> <p>この協議会の中で今年は何をやるんだと、どういうところまで進めていくんだと、そのような大きなものが、最後に言われたことこそが本来の事業計画であると思う。そこを年度初めに皆さんで確認しておく。それで今年度は西能美航路のことについてはこういう状態まで持って行くんだ、その中でお金を使うのはこの利用状況の調査で幾らだ、こういう位置づけにしておかないと、皆さん行先が分からないままにこの協議会をやることになる。これが事業計画と言われると、今年度は調査して終わりと思われる。</p>
<p>議長</p>	<p>この事業計画の最初のところで、全体的な方向付けみたいなものを少し触れておけば良いのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<p>基本的にこの協議会が何のために今まで続いているか。これで終わったという格好では、市民の人にもいろいろとご協力いただきながら進めてきた会でもあるし、今までも西能美航路だけでなく全体的に江田島市の航路として存続するための、公設民営などいろいろな意見が出ているが、そういう全体的なことをもう少し真摯に考えてこの事業計画に、今後継続する協議会として載せていかなければ。</p> <p>皆さんがこの時間を割いて協力していただいていることを、もう少し理解していただきたい。</p>
<p>議長</p>	<p>「平成24年度事業計画について」5項目あるが、今後はその前段のところ全体で方向性というものに触れておいて取りまとめていくということで、今後とも市民の皆様にご協力をいただけるようにしていきたいということで、事務局にお願いしたい。</p>

	<p>それでは、平成24年度事業計画及び歳入歳出予算について、付帯条件は付くが承認いただいたということで取りまとめさせてもらう。</p>
<p>(3) 大須地区社会実験運行について</p>	
事務局	<p>－資料3により説明－</p>
議長	<p>事務局から社会実験運行の利用者数と運行に伴う経費の問題について報告があった。これについて意見や質問はないか。定期券の計算方法については江田島バスの方法を準用したということである。</p>
委員	<p>陸上分科会でこういう案が決まった訳だが、地元地域の皆さんにはある程度この内容は説明されているのか。</p>
事務局	<p>大須自治会長が入院中であったため、副会長に報告したが、特に要望はなかった。今後は広報をしっかりと周知していきたい。</p>
議長	<p>広報で周知していくということで、その点は特に高齢者の方がなかなか周知の方では難しいところがあると思うが、大丈夫か。</p>
事務局	<p>広報誌と、マイクロバス車内、それから栈橋や出張所など、目に付くような所にチラシを貼り付けるなどして、周知に努めたい。</p>
議長	<p>ほかに何か意見や質問はないか。 ないようなので、協議事項(3)大須地区の社会実験については承認いただいたということで取りまとめさせてもらう。</p>
<p>(4) おれんじ号の変更協議について</p>	
事務局	<p>－資料4-1, 4-2により説明－</p>
議長	<p>おれんじ号の変更について、何か意見や質問はあるか。</p>
委員	<p>沖美町三高地区の自治会から、宇品～高田航路の最終便と結んだ、高田港から三高港までのデマンドを、できれば2～3か月実証運行してほしいという要望がある。 三高港までのフェリーは宇品発21時の便が最終である。三高からの通勤・通学者も非常に多いのだが、学生のクラブ活動ができにくい、あるいは通勤者の残業が難しいということから、そのために夜間便も能美町営船のときに作ったのだが、20時以降、できれば最終便のデマンドを実証運行してほしいという要望が強い。 先般の陸上分科会で、こういう面について検討してもらえたのかどうかということも伺いたい。 非常に難しいことはわかる。芸備商船がああいった状態になり、三高航路が1日も休まずに今の状況で運航できることは大変ありがたいと思っている。それに続いてそういう要望を叶えるように、できれば技術的にもうちょっと検討を加えていただき、今後そういうことを考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>以前よりそういった要望があることを会長から伺っており、17日に</p>

	<p>開催した陸上分科会で議題の一つに挙げさせてもらった。</p> <p>陸上分科会はバス事業者とおれんじ号事業者に参加してもらっているが、デマンドでやる場合、事前予約を受け付ける時間が、実際の運行時間以上に必要になってくる。通常、夜はタクシー事業だけをやっているが、そこに影響が出る部分があるのと、乗務員が夜間に走るとなると夜間割増などの経費がかかる部分があり、それに見合うだけの利用者がいるかどうかという点も判断になるかと思う。現状ではデマンドでの対応は難しいという意見にはなった。</p>
議長	<p>また今後も引き続き検討していただくということで、よろしくお願 いしたい。</p> <p>ほかに何かないか。それでは、おれんじ号の変更については承認い ただいたということで、取りまとめさせていただきます。</p>
(5) 生活交通ネットワーク計画について	
事務局	—資料5により説明—
議長	生活交通ネットワーク計画について、意見や質問はないか。
委員	<p>質問というよりも、意見というか参考にしてもらえば良いのだが、 今回は海に関するものはこの公共交通活性化、いわゆる地域交通再生 のものから外れた。国も予算を付けない。陸の方をやろうと思うと、 こういう作文というか綿密な物を出して補助金を取るということだど 思う。その中で生活交通を守るためのものは、海上交通を守るための 国の補助金は出なくなったのだが、ひとつ、目があるのが「モーダル シフト」だと思う。</p> <p>モーダルシフトの観点から物流をフェリーにシフトしたら、そのた めのお金は出るというのが、いろいろ制度がある。江田島の場合もそ れが当てはまるのではないか。</p> <p>例えば広島と江田島との経済活動の中で、今までずっと早瀬大橋と 音戸大橋を渡って広島市内へトラックが走っていたものが、江田島か らカーフェリーを利用することでこれだけ二酸化炭素を減らせられる と、こういう切り口で補助金をもらいにいく目があると思う。</p> <p>前にも申し上げたように、グリーン購入法によって、公共機関はい わゆる環境に優しいものを買いなさいというのがある。前にお願 いしたのは、県の港湾工事などがあるときは、広島市内から業者が来ると ときには必ずカーフェリーを使って工事に来てくださるか、そういう 義務付けをお願いしたと思うのだが、それに類することで、例えば江 田島市内の大型物販店・スーパーが、今までトラックが走って広島市 内から品物を仕入れたり配達したりしていたものを、荷主と物流事業 者とが協議会を作って、長い距離を走るトラックをカーフェリーに載 せることで二酸化炭素を減らすから補助金を出すという、そういった</p>

	切り口を活用するというのもひとつの手ではないかと、この説明を聞いて思った。
議長	ひとつの見方としては、海上交通を活用することによって環境対策にもつながるということで、そういう切り口もあるのではないかとご指摘である。これについては事務局で是非検討してもらいたいが、今日は中国運輸局の方も来ているので、そういう面で環境対策という点で今後の展望はいかがなものか。
委員	おっしゃるように、確かに重要である。モーダルシフトの補助の関係だが、私共が情報を持ち合わせていないので、情報を入手してみたい。それで参考に活用できるのかどうか、情報提供させていただく。
議長	是非検討していただき、資料などがあれば我々の方へ情報開示をお願いしたい。ほかに意見はないか。 それでは生活交通ネットワーク計画については、基本的に承認をいただいたと取りまとめさせていただく。
5 その他	
議長	その他ということで、今日の協議の中で言い忘れたことなどがあればお願いしたい。
オブザーバー	この会に学校関係者が一人もいないが、今この島のほとんどの地区の子供が、路線バスを使って通学している。委員の「利用者または住民代表」の中に、校長代表でも良いので学校代表者を入れたらどうかということをお聞きする。 地区のことになるが、飛渡瀬地区が江田島小学校に通うようになった。庭草（にわそう）という停留所があるのだが、ここが非常に危ない停留所で、ここから子供を乗せないでほしいと教育委員会が言っていたが、今2~3人乗っているようだ。そこを検討してほしい。 もう一点は、皆さんは津久茂大橋の陳情を忘れていてのではないかと、このことを前に副市長に尋ねたところ、覚えているとの回答であった。行政も議会も津久茂大橋を断念しているのではないかという気がしてならない。これが架からないと、この島の発展あるいは島と広島・呉とのパイプも…。 切串の方が沖美ふれあいセンターで会議があるとき、宇品に行くよりも時間が掛かる。ここに橋があればわけなく行ける。そういうことをお願いしたい。
議長	特に学校教育関係というのは、実際この会の中で教育委員会関係の方もいないし、そういう意味では欠けているかなという感じもする。情報は流れているとは思いますが、その点は事務局としてはいかがか。
事務局	学校関係者がメンバーに一人もいないという件だが、そういう視点がこれまで漏れていたのかなという点はあるので、その点については

	<p>改めて検討したい。</p> <p>停留所が危険ということについては、現地も見させてもらい、また考えさせてほしい。</p> <p>津久茂大橋の陳情の件は、提案はしているがなかなか軌道に乗らないという状況である。提案活動は現在も続けているので、その点をご理解いただきたい。</p>
議長	<p>いずれにしても学校関係が抜けているので、この点はまた事務局の方で鋭意検討してもらい、数の限りはあるができるだけ前向きに検討してもらえようをお願いしたい。</p>
委員	<p>学校教育関係者の参加がないということで、この会に対してあるかないかと言われると、おられないのだが、内容については教育委員会と調整しながら進めているということは実際やっている。その辺は誤解がないように。メンバーが入っているかどうかという議論になると入っていないので、それはまた別の議論として進めていけば良いと思う。高校生は教育委員会と協議していないが、小中学生のスクールバスや路線バスによる通学については、協議をしながらやっているという状況は付け加えさせてもらいたい。</p> <p>各停留所での危険性とか、今のように貴重なご意見が私共の耳に入ればまた検討もできるが、自治会や市にもいろんな組織があるので、そういうところから意見があがれば、一緒に協議して安全を保っていきたいと考えている。</p>
会長	<p>先程、委員からご指摘で、いわゆる海上交通の面で、事業計画書がどちらかと言うと予算書の内訳書的なニュアンスがあると、方向性がきちっと示されていないのではないかということだが、決してないがしろにしたわけではなく、総合連携プランの中にも、海上交通の平成22年度から24年度の方角性については、航路資源の共有化あるいは市全体における将来的な望ましい航路運営に向けた継続的な話し合いを実施する、あるいは第2音戸大橋開通の影響調査・対応検討、更には市の東部の航路における合理化・効率化等の検討も加える、こういったことがきちっと計画に盛り込まれている。陸上交通においても同じで、観光等についても明記しているので、この総合連携プランに基づいて具体的に進めさせていただきたいと思っている。</p>
6 閉会	